

老健にいがた

第40号

2016. 8 Vol. 40



祝20周年



目次

老健にいがたは今年で20周年を迎えました。今号と次号でこれまでの機関誌の表紙をピックアップして掲載いたします。

卷頭言	1	介護報酬加算等の算定状況アンケート結果報告	9
特集：ユマニチュードを実践しての入所者の変化、職員の変化などについて	2~4	協会だより	10~14
平成27年度 介護米百俵賞受賞演題	5~7	こんなことやってます!!~会員施設の取り組み~	15~18
平成27年度 研修会報告	8	みんなの広場	19

卷頭言

新潟県介護老人保健施設協会 会長

やまぼうし 馬場 肝作



日頃、当協会の業務運営につきまして、役員及び会員の皆様よりご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

この度臨時総会で、役員の任期満了に伴い引き続き会長を務めさせて頂くことになりました。会員皆様方よりご協力頂きたくよろしくお願ひいたします。また、役員では介護老人保健施設アビラ大形 理事長 鈴木雄二氏から老人保健施設やすらぎ園 理事長 荒川太郎氏に改選され、また同日開催の全国老人保健施設協会新潟県支部総会で、代議員の改選として介護老人保健施設米山爽風苑 管理者 松田 ひろし氏から介護老人保健施設ケアポートすなやま 理事長 松田 由紀夫氏に決定され、予備代議員に介護老人保健施設女池南風苑 副理事長 樋熊 紀雄氏が選任されましたので報告させて頂きます。

なお、この度退任されました鈴木理事にはいろいろと協会業務にご協力を頂き感謝申し上げます。

さて、皆様も報道で御存知のように熊本地震で被災された皆様には、心より哀悼の意を表します。

通常総会にて当協会としても被災された方への義援金として、1施設1万円のご協力をしてることで決定されましたので、会員皆様にはご協力をお願い申し上げます。1日も早い復興をお祈りいたします。

新潟労働局局長より、「労働者が安心して働くことのできる介護職場の実現に関する要請書」を新潟県社会福祉協議会会长・新潟県老人福祉施設協議会会长・新潟県介護老人保健施設协会会长・新潟県介護サービス事業者協議会会长にそれぞれ手交され、それぞれの協会会长より「労働災害防止のための日頃からの取組状況」について発表され、労働災害の事故発生防止の取組や個々の労働者に即した安全衛生教育の実施・ストレスチェックの確実な実施を始めとするメンタルヘルス対策の推進について要請を受けました。要請書の写しについては会員各位に配布しておりますが、遵守されますようお願い申し上げます。

全国老人保健施設連盟では、会費の増額により会費収入が3～4倍に増加し麻生副総理を代表とする地域包括ケアシステム介護推進議員連盟の中心的な支援団体となりました。平成27年度には介護報酬が2.27%減となりましたが平成30年度医療・介護同時改定に向けて議員連盟に2.27%減になった介護報酬を復活するよう要望書を提出しており、現状よりはアップすると期待しております。

今後会員皆様のご協力を頂きながら、法令遵守と会員相互の親睦並びに融和を目指し運営して参りたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

平成26年度の新潟県介護老人保健施設大会において、ユマニチュードの実践報告を行い、学術奨励賞を受賞した「さくら苑」のその後の取り組みを執筆していただきました。なお、4ページに、平成26年度の抄録も掲載しておりますので、併せてご参照ください。

ユマニチュードとは、フランス生まれの新しい認知症ケアの手法で、特別な治療もなく、わずか1分で驚くほどの効果をもたらすと、国内でも多くのメディアで取り上げられ、医療・介護の現場で注目を集めています。

「さくらに広めようユマニチュードの輪」



さくら苑

介護福祉士 西村 和美
介護福祉士 星野 恵美子
介護福祉士 神田 慎二
理学療法士 大関 勇人

利用者様を見つけては、「〇〇さん、お風呂ですよ」と声を掛ける、これがユマニチュードに出会う前の私達の日常でした。良くて挨拶が入る程度、今思えば当たり前の対応さえできていなかった自分達を恥ずかしく思います。

私達は平成26年度の老健大会において、独自に学んだユマニチュードを介護抵抗のある認知症の方に実施した取り組みをまとめ、「さくらに広めようユマニチュードの輪」として発表しました。抄録を読んで下さった方や当日発表を聞いて下さった方も多いと思いますので、今回は、抄録に書ききれなかった別の視点での「さくらに広めようユマニチュードの輪」にお付き合い頂きます。

当施設は開設当初から研究に取り組み、私達はその度に認知症の方と向き合ってきました。その時々で今一番困っている事の改善を考えた時に決まって話題になるのが、認知症による介護抵抗や介護拒否でした。私達はこれまで過去の学びや経験から個人がそれぞれの対応を行い、成功体験を伝え合いながら様々な方法を試してきましたが、介護抵抗や介護拒否が無くなる事はありませんでした。私達は介護という仕事を通して、利用者様の危険や不快を取り除こうと努力してきました。しかし、この利用者様の為に行っているという思いが伝わっていない事から、利用者様は自分を守る為に抵抗という行動に出るという考えに辿り着きました。

どうすれば自分達の思いを伝えることができるのか、日々の対応の中でその方法を模索していました。そんな時私は何気なく見ていたテレビ放送からユマニチュードに出会ったのです。映像の中では対比するように、大声をあげて抵抗しているシーンと拒否なく介助を受け入れているシーンが流れ、私は目を疑いました。

半信半疑のまま、ユマニチュードという言葉だけを頼りに研究メンバーに提案し、まずは自分達が学ぶことから始めました。当時はまだ日本で本も出版されていなかった為、イ

インターネットで資料を集め、ユマニチュード研修を受けた伊藤美緒氏の講演会に参加しました。ユマニチュードは様々な機能が低下し他者に依存しなければならない状態になったとしても、最後まで人間らしい存在であり続ける事を支える為に見る・話す・触れる・立つの4つの援助が必要であると述べています。その内容は例えば触れるにしてもただ触れるのではなく、広い面積をゆっくり撫でるように触れ、5歳児の力以上は使わない等の決め事があります。また、ケアを始める前から終わった後までを5段階に分け、入室のノックや挨拶から再開の約束までの関わり方を、4つの援助を基本に具体的な手順が示されている等、正しくユマニチュードを実施するには数日間の研修を受ける必要がありました。しかしその講演の中で、できることは行ってもらって構わないと聞き、私達は自分達なりの方法であれば実施可能であると考え、まずは研究メンバーが行ってみることにしました。

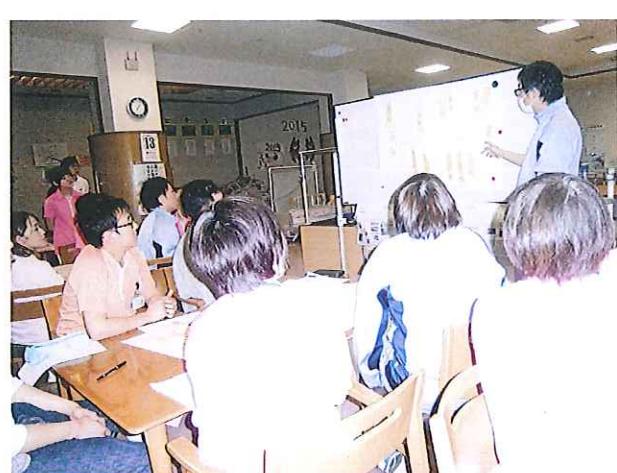
メンバー各々が効果を感じ取り、その成果を話し合い、当時特に排泄介助に困っていた80代男性の認知症利用者様への実施が始まりました。成功率は徐々に上がり、それを見ていた他の職員たちが興味を持ち始めた為、私達は自分達が学んだ資料を分かり易く作成し直し、勉強会を行いました。その中で特に重視したのが自分達の思いを伝える為の段階である、ケアの合意を得る場面でした。

私達は時に自分達の都合を優先して声掛けを行ってしまう事がありますが、ユマニチュードでは、例えそれが相手の為であっても強制的な印象を持たせたままケアを実行してはならないと述べられており、3分で合意が得られなければ出直すとされています。諦める事はマイナスの印象ではなく利用者様の意思を尊重することであり、誘導が上手くいかなければ諦めても良いという事を繰り返し勉強会で説明しました。また勉強会の中で、実際に対応に困っていた認知症利用者様と職員の



やり取りを映像で見せた事で、職員がより現実的にその効果を感じ取ってくれたのだと思います。

私達はユマニチュードを通して、利用者様との関わり方を見つめ直す機会を与えられました。ユマニチュードは人として当たり前にしている事が体系化された技術であり、認知症の方に介護者の存在を受け入れてもらうための技術でもあります。私達は今回、その方を思う職員の思いを伝える技術を身に着ける事ができました。



また例えそれが利用者様の為であっても強制的な介助は行わず、諦める事の大切さを知りました。現在の入浴時の声掛けは、「〇〇さん、こんにちは。今日は良い天気ですね、体調はいかがですか？」そんな会話が聞こえてくるようになりました。さくら苑では、今日もあたり前の一日があたり前の対応であたり前に過ぎています。

さくらに広めようユマニチュードの輪 ～介護を楽しめる方法見つけた～

介護老人保健施設 さくら苑

介護福祉士 西村 和美

星野 恵美子 神田 慎二 大関 勇人

<キーワード>

ユマニチュード

<はじめに>

私達は日々の業務を確保する為、大声や手を振り払う等の抵抗があっても介護を続けている現状がある。

利用者の安全や清潔の為、本人の思いに反してい事を実行し、時に攻撃的な言動を受ける結果となり、その度にやるせない思いを感じ、自分達の仕事に自信が持てなかつた。そんな時テレビ放送でユマニチュードに出会い、介護抵抗の強い認知症の方が介護をスムーズに受け入れる映像を見た。そこで私達はユマニチュードを独自で学び実施した所、今まで大声を上げていた認知症利用者が、抵抗なく介護を受け入れてくれた体験から介護の楽しさを再認識し、自分達の介護に自信が持てるようになった経過を報告する。

<経過>

- ① 私達は、職員と利用者の思いに差が生じた時に起こる行動が介護拒否であり、職員の理解不足による介護者主体のケアが原因の一つだと考え対応を探していた所、テレビ放送でユマニチュードを知った。
- ② ユマニチュードの資料を集め研修会にも参加する等、研究班員が独自で学んだ。
- ③ 研究班員が介護抵抗のある認知症利用者を行った所、介助の成功率が上がる等の効果があった為、特に対応に困っていた利用者に実施する事にした。対象者は、失禁時も大声を上げて抵抗し、パットを交換させてくれない事が多く、バイタル測定時等排泄以外の場面でも同様に大声で拒否する男性利用者にした。

以前は声を掛ける度に強い口調で抵抗していたが、私達なりに考えたユマニチュードを実施すると、徐々に誘導に成功する回数が増えた。

- ④ ユマニチュードの効果を目の当たりにした職員が興味を持ち始め、研修や本等から資料を作成し、方法を伝える為の勉強会を行い、徐々に対象者への実施が始まった。
- ⑤ ユマニチュードを行う職員が増えた為か、より誘導に成功する事が多くなってくる。また『ありがとうございます』等の感謝の言葉を頂けるようになり、誘導が無くてもトイレに行く回数が増えた。
- ⑥ 排泄以外でも大声を上げる事が少くなり、穏やかに生活するようになった。

<終わりに>

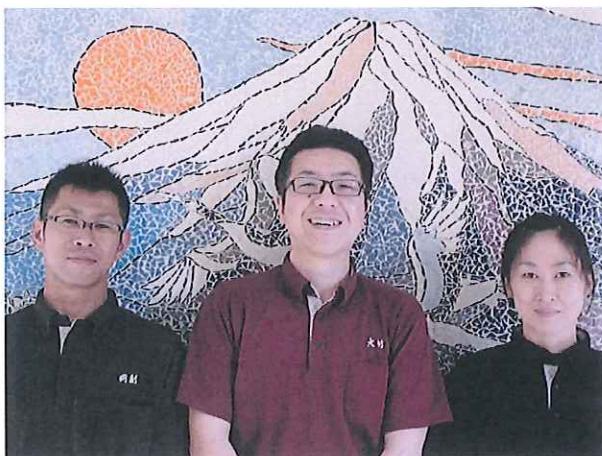
今回見よう見まねではあるがユマニチュードを行った結果、今まで抵抗の強かった認知症利用者が介護をスムーズに受け入れるだけでなく、自発的な言動や感謝の言葉を実際に聞けた事で、自分達の対応が大きな影響を与える事を再認識した。またユマニチュードの技術を通して利用者の思いに気づき、その思いを優先させた事で良い印象が繰り返され、利用者と職員の関係が良くなり、自然と笑顔が溢れ会話も多くなった。

始めは研究班員による小さな輪であったが、ユマニチュードを実施する私達の姿から、介護の楽しさを見つけた職員達の力によってこれからは大きな輪へと広がっていく事を期待したい。ユマニチュードは誰にでも身につけられる技術である。今後は職員研修に活用する等し、私達の理想とする利用者と職員双方が満足できる介護を自信を持って提供ていきたい。

平成27年度介護米百俵賞受賞演題

平成27年度 介護米百俵賞に選ばれました「てらどまり」の演題をご紹介します。

ボードは笑顔の架け橋 ～持ち上げない介助定着に向けての取り組み～



てらどまり

介護福祉士 大竹 宏一
介護福祉士 岡副 勉
介護福祉士 土田 麻由美
介護福祉士 駒木根 成子

〈はじめに〉

これまで当施設では持ち上げない介助を導入し、スライディングボード（以下ボード）使用の定着を目指してきた。しかし当施設のはまなす棟では一部の利用者のみの使用にとどまり、従来の持ち上げる介助をしてしまう現状があり拡がりをもたせることができなかつた。

そこで、棟全体としてボードの使用を定着させるために、どのような取り組みが必要か検討し、研修や福祉用具の設備の他に、部署目標に挙げ、職員の意識や行動の改善に力を入れた。その結果、ボードの使用が定着したので報告する。

〈取り組み〉

1. 課題把握のための意識調査

- ・ボードの使用が定着されないのか職員間で意識調査を行った。
- ・結果：「まだ使いこなせない。」「業務に追われた時に持ち上げたほうが早い。」「ボードの数が少ない、高さ調整できないベッドではやりにくい。」という課題が挙がった。

2. 改善策とその取り組み

- ・当施設で取り組んでいる各部署で目標を掲げる「行動計画書」において、はまなす棟では「持ち上げない介助技術」の実践を挙げ、平成26年度下半期にボードの使用実践とし、強化月間を設けた。（表①参照）

行動計画書・運営計画書
部署・氏名 はまなす 岡副 勉

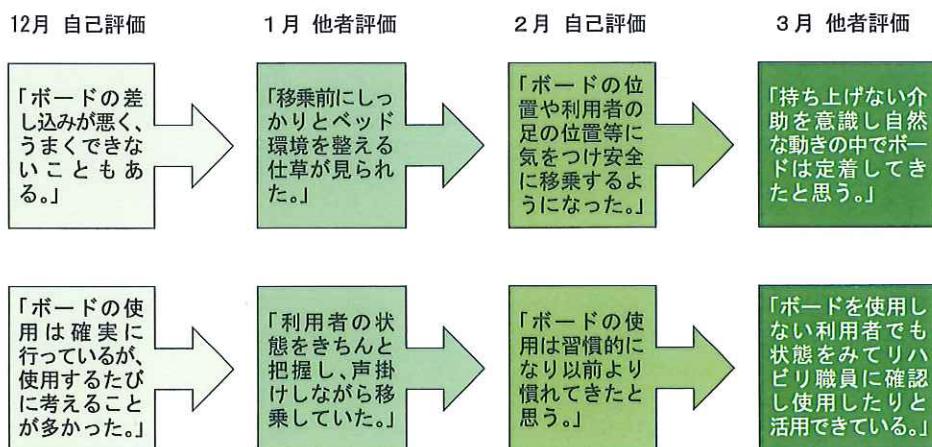
No.	課題	目標	実施計画	期間	達
1	利用者の記録が乏しく、情報共有ができない。	決められた記録を確實にする事で情報収集、情報の共有ができる。	①ケアプランの日々の実績（○・×評価）を当日勤務者で割り振り記録する。担当者（日勤、遅勤務） ②サービス担当者会議①の参加者は検討内容を詳しく記録に残す。担当者個別担当	11月	
				12月	
				1月	
				2月	
2	ケアプラン作成の提出期限が守られない。	ケアプランの提出期限が守られる。	①モニタリング、本人・家族への意向確認をし『サービス担当者会議①』を確実に行う。（個別担当が開始日の1ヶ月前） ②ケアプラン作成後、本人・家族へ説明し同意を得る。また、『サービス担当者会議②』を実施する。（個別担当が開始日前には必ず行う） ③ケアマネに提出。 ④ケアプラン開始。 ※実施状況を主任、リーダーが確認、管理する。	3月	
				4月	
				11月	
				12月	
3	合同研修で講義を受けていながら持ち上げない介助ができる。	利用者、職員共に負担の少ない移乗方法ができる。	①10月中旬より金子PT講師にて介護職員対象に移乗方法の研修開始。研修受けた職員より、隨時持ち上げない介助を実践する。 11月…実践してみての感想 12月…自己評価 1月…他者評価 2月…12月の評価を踏まえて再度、自己評価 3月…他者評価 4月…新人職員への伝達（指導者の立場で考える） ※他者評価については「誰が誰を評価するか」は主任、リーダーで決める（%も他者より）	1月	
				2月	
				3月	
				4月	
				11月	
				12月	
				1月	
				2月	
				3月	
				4月	

表①

【平成 26 年度下半期：ボード使用の実践】

- ・ボードの数を 2 枚から 5 枚に増やし、ボードが持ち出しやすいようホールに収納場所を設けた。
 - ・電動ベッドが少なかったため、購入を依頼した。
 - ・理学療法士と共にベッドから車椅子間でのボードを使う場面を職員間で統一させた。
- 上記の計画に対して、全職員が毎月、自己評価、他者評価、自己達成率を報告し合った。（図①参照）

全職員が毎月、自己評価、他者評価を行った。



図①

- ・当施設内研修においても全職員を対象にボードを使用した介助技術の講義、実技を行った。この研修は、5年前より続いている。
- ・入浴場面でも臥床浴時、特浴ストレッチャーから移動用ストレッチャーへ職員 2 人もしくは 3 人で抱えて移乗を行っていたため、利用者の安全、職員の腰痛予防を考え、スライディングマット（以下マット）を購入した。

〈結果〉

【平成 26 年度下半期：ボード使用実践】

- ・自己達成率は平均 67%（12月）から 84%（2月）に上がった。（表②参照）

3	合同研修で講義を受けていたりが持ち上げない介助ができる。 ※他者評価については「誰が誰を評価するか」は主任、リーダーで決める（%も他者より）	○10月中旬より金子PT講師にて介護職員対象に移乗方法の研修開始。研修受けた職員より、随時持ち上げない介助を実践する。 11月…実践してみての感想 12月…自己評価 1月…他者評価 2月…12月の評価を踏まえて再度、自己評価 3月…他者評価 4月…新人職員への伝達（指導者の立場で考える） ※他者評価については「誰が誰を評価するか」は主任、リーダーで決める（%も他者より）	6ヶ月	11月	—	持ち上げない介助が定着できるように各月毎に自己評価、他者評価してきた。ボードの使用は定着してきたが、その方にあつた介助方法については「本当にこの方法でいいのか」と見直す必要もある。担当リハ職員と相談して今後も継続、検討したい。尚、体交シートやグローブも使用し始めている。正しい方法で活用できているのか確認する場を設ける。
				12月	67%	
				1月	91%	「本当にこの方法でいいのか」と見直す必要もある。担当リハ職員と相談して今後も継続、検討したい。尚、体交シートやグローブも使用し始めている。正しい方法で活用できているのか確認する場を設ける。
				2月	84%	
				3月	90%	正しい方法で活用できているのか確認する場を設ける。
				4月	82%	
					83%	正しい方法で活用できているのか確認する場を設ける。

表②

実践していく中で職員からは「皆、声を掛け合ってボードを使用しての移乗ができた。」との声が聞かれ「ボードを使用すれば腰への負担軽減、介護する側も介護される側も楽になる。」と再認識できた。

- ・電動ベッドの購入についても6台購入することができた。ベッド環境が整い利用者も端坐位から移乗することで柵に掴まって自分の身体を支え、自分で動くことができ自立支援にも繋がると再認識できた。(図②、③参照)

結果 電動ベッドが増え移乗前にベッド環境を整えられるようになった。



図②

利用者も自分の力を少しでも出せる。自分で動くことができる。



図③

- ・臥床浴時、ストレッチャー間をマットで滑らせることで利用者から「前は抱えられて少し怖かったが今は横に滑るだけだから怖くないよ。」という言葉が聞かれた。職員からも「マットの使いかたも慣れてきて腰痛あまり感じなくなった。」という言葉も聞かれた。

〈課題〉

課題を部署目標に挙げることで、部署全体で共通の目標として取り組み、環境を整えることによりボードが使いやすくなった。そして職員の意識も高まりボードの使用に対する自己達成率が上がった。

また、福祉用具の必要性を訴え、購入することができたことは、管理者を含め施設全体の意識が高まったと考えられる。今回の取り組みで、ボードの使用は定着したとの声が聞かれる一方で、介助方法については「本当にこの方法でいいのか。」との声が聞かれている。入浴場面では車椅子からシャワーチェアへの移乗の際、利用者を抱えて移乗を行っている現状がある。介助方法については、さらに理学療法士と共に実践的な研修会の継続やカンファレンスを活用し、使用方法を見直す必要がある。またさらに現場から出ている技術面に対する不安への対策や、利用者個々に合った使い方を多職種のチームで一緒に考える場を設ける必要がある。今後も施設内研修を継続し、施設全体でスキルアップが必要と考えられる。

〈まとめ〉

今回の取り組みによってボードの使用が定着することができた。スライディングシート（介助用グローブも含む）の使用も平成27年度上半期の部署目標に挙げている。ボードと同じように定着できるよう引き続き施設内研修を継続し多職種と連携し実践しながら利用者、職員共に「お互い楽になったね。」と笑顔で介助できるよう継続していきたい。

自立支援型ケアとリハ研修会

この研修会「自立支援型ケアとリハ研修会」は、当初、平成27年8月に予定されていましたが、講師の都合により、平成28年3月11日に延期されての開催となりました。

当日の3月11日は、5年前の東日本大震災が発生した日ということもあり、宮城県で被災された震災時のエピソードをまじえてのスタートとなりました。途中、発生時刻の14:46には参加者全員で1分間の黙とうを捧げ、ご冥福をお祈りしました。



日 時：平成28年3月11日（金）
会 場：アオーレ長岡
参加施設：34施設
参加人数：70名

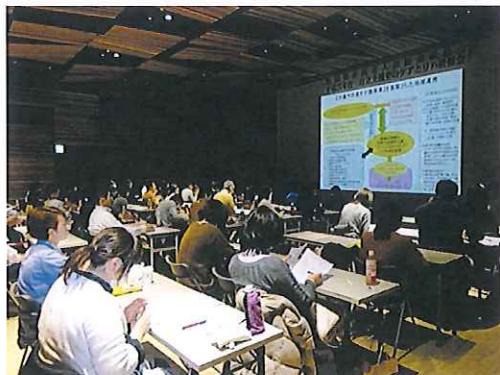
土井勝幸氏 プロフィール

宮城県 医療法人社団東北福祉会
介護老人保健施設せんだんの丘
施設長 作業療法士



〈職歴〉

昭和61年 社会福祉法人
日本心身障害児協会
島田療育センター
中略 ～老健、重心施設、養成校教員～
平成12年 医療法人社団東北福祉会
介護老人保健施設せんだんの丘 副施設長
平成18年 学校法人栴檀学園 東北福祉大学
特任准教授（兼務）
平成20年 医療法人社団東北福祉会
介護老人保健施設せんだんの丘 管理者



『制度改定と今後の介護老人保健施設のあり方』～在宅復帰と地域生活継続支援～をテーマに、介護老人保健施設せんだんの丘においての在宅復帰支援のお話があり、いかに利用者ニーズを把握し確認していくか、ニーズは日々変わっていくものであり、それを掘り起こし、知っていかなければならない等、ご講義いただきました。

残念ながら時間の都合上、演習は行えませんでしたが、とても有意義な一日を過ごすことができました。

～参加者の声～

- ・老健の運営や職員をいかに育てるか、在宅へ帰す、また次の施設へ繋げるにはどうするか？等、勉強になった。アセスメントは重要であり、その為には訪問が大事だと教えてもらった。
- ・当園でもこれから取り組めることがまだまだあると思った。固くなっていた頭（考え）が少し柔らかくなったように感じた。
- ・わかりにくかった地域包括ケアシステムの理解だけではなく、報酬改定の理解の仕方、具体的な取り組みなどの様々な視点で、知識と手本を示していただいた。当事業所で見直せる部分、すぐ変えられる部分も多かったように思う。明日以降に活かして行きたい。
- ・施設運営等「つっこんだ内容」の話を聞くことができた。視点を変える良い機会になった。

介護報酬加算等の算定状況アンケート結果報告

平成 27 年度の介護報酬改定から一年を経過しての（平成 28 年 4 月現在）算定状況のアンケート調査を実施致しました。その集計結果を報告致します。

(回答施設 71/97 回答率 73.2%) (回答施設 79/95 回答率 83.2%)

項 目	27 年 度		28 年 度		
	算定している	算定割合(%)	算定している	算定割合(%)	
介護保健施設サービス費(Ⅰ)	介護保健施設サービス費(i)〈従来型個室〉[従来型]	64	90.1%	69	87.3%
	介護保健施設サービス費(ii)〈従来型個室〉[在宅強化型]	2	2.8%	2	2.5%
	介護保健施設サービス費(iii)〈多床室〉[従来型]	62	87.3%	71	89.9%
	介護保健施設サービス費(iv)〈多床室〉[在宅強化型]	1	1.4%	2	2.5%
介護保健施設サービス費(Ⅱ)	介護保健施設サービス費(i)〈従来型個室〉[療養型]	1	1.4%	0	0.0%
	介護保健施設サービス費(iii)〈多床室〉[療養型]	1	1.4%	0	0.0%
	介護保健施設サービス費(iv)〈多床室〉[療養強化型]	0	0.0%	1	1.3%
介護保健施設サービス費(Ⅲ)	介護保健施設サービス費(i)〈従来型個室〉[療養型]	1	1.4%	0	0.0%
ユニット型介護保健施設サービス費(Ⅰ)	ユニット型介護保健施設サービス費(i)〈ユニット型個室〉[従来型]	9	12.7%	8	10.1%
	ユニット型介護保健施設サービス費(iii)〈ユニット型準個室〉[従来型]	0	0.0%	1	1.3%
夜勤職員配置加算		53	74.6%	63	79.7%
短期集中リハビリテーション実施加算		64	90.1%	69	87.3%
認知症短期集中リハビリテーション実施加算		23	32.4%	25	31.6%
認知症ケア加算		13	18.3%	16	20.3%
若年性認知症利用者受入加算		12	16.9%	8	10.1%
ターミナルケア加算		30	42.3%	29	36.7%
療養体制維持特別加算[療養型のみ]		2	2.8%	1	1.3%
初期加算		71	100.0%	79	100.0%
入所前後訪問指導加算(Ⅰ)		19	26.8%	14	17.7%
入所前後訪問指導加算(Ⅱ)		12	16.9%	5	6.3%
退所時指導等加算	退所前訪問指導加算	26	36.6%	33	41.8%
	退所後訪問指導加算	19	26.8%	16	20.3%
	退所時指導加算	44	62.0%	54	68.4%
	退所時情報提供加算	48	67.6%	12	15.2%
	退所前連携加算	38	53.5%	48	60.8%
	老人訪問看護指示加算	8	11.3%	4	5.1%
栄養マネジメント加算		68	95.8%	74	93.7%
経口移行加算		13	18.3%	15	19.0%
経口維持加算	経口維持加算(Ⅰ)	22	31.0%	37	46.8%
	経口維持加算(Ⅱ)	17	23.9%	24	30.4%
口腔衛生管理体制加算		35	49.3%	41	51.9%
口腔衛生管理加算		9	12.7%	11	13.9%
療養食加算		68	95.8%	78	98.7%
在宅復帰・在宅療養支援機能加算		5	7.0%	10	12.7%
緊急時施設療養費	緊急時治療管理 療養型老健以外	19	26.8%	26	32.9%
	緊急時治療管理 療養型老健	3	4.2%	1	1.3%
	特定治療	2	2.8%	1	1.3%
所定疾患施設療養費	療養型老健以外	41	57.7%	45	57.0%
	療養型老健	7	9.9%	2	2.5%
認知症専門ケア加算	認知症専門ケア(Ⅰ)	1	1.4%	0	0.0%
認知症行動・心理症状緊急対応加算	療養型老健以外	1	1.4%	0	0.0%
認知症情報提供加算		1	1.4%	0	0.0%
サービス提供体制強化加算	地域連携診療計画情報提供加算 在宅強化型以外	2	2.8%	2	2.5%
	サービス提供体制強化加算(Ⅰ)イ	65	91.5%	72	91.1%
	サービス提供体制強化加算(Ⅰ)ロ	4	5.6%	5	6.3%
	サービス提供体制強化加算(Ⅱ)	3	4.2%	2	2.5%
介護職員処遇改善加算	介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	42	59.2%	45	57.0%
	介護職員処遇改善加算(Ⅱ)	20	28.2%	24	30.4%
	介護職員処遇改善加算(Ⅲ)	0	0.0%	1	1.3%
	介護職員処遇改善加算(Ⅳ)	0	0.0%	1	1.3%

ご協力いただきました施設の皆様ありがとうございました。



平成27年度 事務長会議

平成27年度事務長会議が平成28年2月19日（金）ホテルイタリア軒にて開催され、82施設93名が出席されました。冒頭、馬場肝作会長のご挨拶があり、新潟県福祉保健部 高齢福祉保健課施設福祉係主任 柳田正和様より「介護老人保健施設の運営基準について」、新潟県福祉保健部 国保・福祉指導課 介護指導班主事 石井優紀様より「平成26年度実地指導実績について」、それぞれ説明していただきました。さらに、全国老人保健施設協会 副会長 本間達也様より「これからのお老健について」ご講義いただきました。

平成27年度 支部総会・臨時総会

平成27年度全国老人保健施設協会 新潟県支部総会ならびに平成27年度新潟県介護老人保健施設協会 臨時総会が平成28年3月17日（木）ホテルイタリア軒にて開催されました。

◎平成27年度全国老人保健施設協会 新潟県支部総会

- 第1号議案 全国老人保健施設協会 代議員の選出について
第2号議案 全国老人保健施設協会 新潟県支部長の選出について
それぞれ、賛成多数により原案どおり議決されました。

◎平成27年度新潟県介護老人保健施設協会 臨時総会

- 第1号議案 新潟県介護老人保健施設協会役員改選について
第2号議案 平成28年度事業計画（案）について
第3号議案 平成28年度収支予算（案）について
それぞれ賛成多数により原案通り議決され、アビラ大形の鈴木理事が退任し、やすらぎ園の荒川太郎氏が理事に就任いたしました。

全国老人保健施設協会 新潟県支部 (任期 平成28.4.1～平成30.3.31)	
支 部 長	馬 場 肝 作
代 議 員	石 田 央
代 議 員	馬 場 肝 作
代 議 員	松 田 由 紀 夫
予 備 代 議 員	土 田 熱
予 備 代 議 員	野 村 穩 一
予 備 代 議 員	樋 熊 紀 雄

新潟県介護老人保健施設協会 役員（任期 平成28.4.1～平成30.3.31）						
会 長	やまぼうし	馬 場 肝 作	理 事	三 面 の 里	戸 澤 和 夫	
副 会 長	米 山 爽 風 苑	松 田 ひろし	理 事	女 池 南 風 苑	樋 熊 紀 雄	
副 会 長	ケアポートすなやま	松 田 由 紀 夫	理 事	陽 光 園	土 田 熱	
監 事	く び き の	野 村 穗 一	理 事	や す ら ぎ 園	荒 川 太 郎	
監 事	越 南 苑	石 田 央	顧 問	楽 山 苑	田 中 政 春	
理 事	しんあい園	長谷川 まこと				

平成28年度 通常総会

平成28年度通常総会が平成28年5月20日（金）ホテルイタリア軒にて開催されました。

冒頭、馬場会長よりご挨拶があり、その後、事務局より総会時の会員数95名のうち出席会員15名（他に代理出席7名）、委任状提出会員64名で計79名との報告があり、定足数を満たしたことから本総会は成立しました。その後、議長として三川しんあい園の百々先生、議事録署名人として、楳の里の斎藤先生とはねうまの里の藤原先生が選任され、百々先生より議長就任の挨拶があり、議事に入りました。

第1号議案 平成27年度事業報告ならびに収支決算について

事務局より説明の後、賛成多数により原案通り議決されました。

第2号議案 地域医療・介護総合確保基金について

通常総会の前の役員会で慎重に審議した結果、もう少し検討の余地があるため取り下げとなりました。

また、総会終了後には、平成27年度新潟県介護老人保健施設大会の学術奨励賞受賞演題（6演題）と介護米百俵賞の表彰式が行われ、介護米百俵賞にはてらどまりの「ボードは笑顔の架け橋」が選ばれました。詳細につきましては、今号の5ページから7ページに掲載しておりますので、ぜひ、ご一読ください。

平成28年度 事業計画

会議

- (1) 通常総会 会則第11条の規定に基づき年1回開催する。
(2) 役員会 必要に応じて開催する。

委員会

【事務長会委員会】実務的な問題事項を検討し、事務長会議を開催する。

【学術研修委員会】年2回程度必要に応じ開催し、研修会等の実施について具体的な事項を検討する。

【広報委員会】年4回程度必要に応じ開催し、機関誌の編集・立案・発行及び協会ホームページの内容について検討する。

【トラブル防止検討委員会】年2回程度必要に応じ開催し、事故・トラブルの未然防止を主目的とした研究と研修会を実施する。

施設運営アンケート調査の実施

必要に応じて実施する。

研修事業

1 「クレーム対応研修会」

日時・会場：平成28年6月23日（木）午前10時～ アオーレ長岡市民交流ホールA
講 師：株式会社 インソース 大塚 友子 氏

2 「通所リハビリ研修会」

日時・会場：平成28年7月21日（木）午前10時～ アオーレ長岡市民交流ホールA
講 師：介護老人保健施設せんだんの丘（宮城県） 施設長 土井 勝幸 氏

3 「ひやり・はっと事故防止対応研修会」

日時・会場：平成28年8月22日（月）午前10時～ アトリウム長岡 白鳳の間・天平の間
講 師：文京学院大学 保健医療技術学部 教授 大橋 幸子 氏

4 「ターミナル研修会」

日時・会場：平成28年10月31日（月）午前10時～ 新潟ユニゾンプラザ 大会議室
講 師：介護老人保健施設 越南苑 様

5 「安全に美味しく食べるための～嚥下障害の評価・対応と口腔ケア～」

日時・会場：平成28年12月5日（月）午前10時～ 新潟ユニゾンプラザ 大会議室
講 師：新潟大学大学院 医歯学総合研究科 准教授 辻村 恭憲 氏

6 「褥瘡・拘縮対策指導者養成研修会」（1日目）、「褥瘡・拘縮対策研修会」（2日目）

日 時：平成29年2月22日（水）、23日（木）両日ともに午前10時～
会 場：両日ともに アオーレ長岡市民交流ホールA
講 師：生き活きサポートセンターうえるぱ高知 代表 下元 佳子 氏

7 事務長会議

日時・会場：平成29年2月予定 ホテルイタリア軒
講 師：新潟県ならびに公益社団法人全国老人保健施設協会に依頼予定

機関誌の発行

機関誌「老健にいがた」第40号・第41号の発行

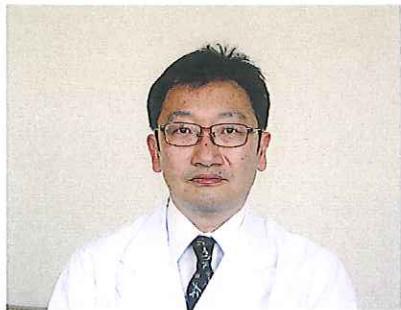
平成28年度 新潟県介護老人保健施設大会 開催のお知らせ

開催日時 平成28年11月11日（金）午前10時より
会 場 新潟ユニゾンプラザ（新潟市中央区上所2-2-2）
参加受付 平成28年7月中旬より参加受付開始

公開セミナー 同時開催

新理事紹介

やすらぎ園 理事長 荒川太郎



この度、皆様からのご推举とご賛同を頂き平成28年4月1日付けで理事に就任させて頂きました。長谷川先生と共に広報委員会を担当いたしますが、先生からはご指導頂きながら生き生きとした委員会活動を支えていければと思います。改めて「老健にいがた」を読み返しますと、各施設の皆様の思いとエネルギーを感じると共に、「今、我々がしていること」の位置づけを確認することができると思います。また、色々な面で視野も広がり、これからのあるべき姿へのヒントが沢山詰まっていると感じますし、研修や研究発表を通じて「老健施設全体を良いものに育てていく」という協会の強い意志も感じられます。このような活動をして頂いていることに感謝を申し上げ、今後もますます施設で働く皆様、サービスを御利用されている皆様の為に有意義で、且つ会員施設の益々の発展に貢献できるよう協力させて頂きたいと思いますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

委員会紹介

—各委員長に抱負を伺いました—

[広報委員会]

委員長 てらどまり 小黒由実

前期に引き続きまして、広報委員長を仰せつかりました、介護老人保健施設てらどまりの小黒と申します。

前期におきましても、「地域に根付いた、身近な話題をタイムリーに届けよう!」というモットーのもと、県内施設の取り組みの紹介を中心に行ってきました。昨年度より、新たな試みとして、「老健とわたし」をリニューアルし、「こんなことやってます!!」と題し、会員施設の取り組みの紹介を行っています。

今期におきましても、引き続き、県の機関誌らしい、地域に根付いた、身近な話題を発信し、皆さんのお役に立てればと思っております。

会長及び理事の先生方、事務局の方々からお力を借りしながら、委員一同、知恵を出し合いながら、精一杯努めたいと思いますので、今後とも、よろしくお願い致します。

	施設名	氏名		施設名	氏名
担当理事	しんあい園	長谷川 まこと	委員	越南苑	西野正人
担当理事	やすらぎ園	荒川太郎	委員	さつき荘	佐藤大輔
委員長	てらどまり	小黒由実	委員	しんあい園	伊藤和代
副委員長	ケアポートすなやま	藤澤 泉	委員	松浜さくら園	本間大輔
副委員長	楽山苑	殖栗真弓	委員	やすらぎ園	岡本直樹
委員	いいでの里	五十嵐武士	委員	やまぼうし	桐生宏樹

[学術研修委員会]

A班委員長 女池南風苑 佐 藤 千賀子

このたび学術研修委員会A班の委員長を務めさせていただくことになりました、女池南風苑の佐藤千賀子と申します。

前年度までは委員長1名体制でしたが今年度よりA班（新潟地区）B班（長岡地区）それぞれ1名ずつ委員長を置き、2名体制で運営することとなりました。

学術研修委員会はその名通り研修会の企画運営が主な業務です。その年ごとに关心の高いテーマや、皆様からお寄せいただいたアンケートを参考にしながら全員で話し合ってテーマをいくつかに絞り込みA班、B班で手分けをして研修会を企画運営していきます。

私は学術研修委員になって8年目になりますが、まだまだ至らない事が多く日々勉強の毎日です。これまでの経験を踏まえ、出来るだけ多くの皆様からご参加いただけるような研修会の企画と、当日も「参加して良かった」と思って頂けるようなきめ細やかな運営が出来るよう心掛けて参りたいと思います。

また、11月に行われます老健大会でもセッションの座長や当日の運営スタッフとしてお世話になります。何分不慣れな委員長ですが理事の先生方や新しいメンバーと協力して頑張って参りたいと思いますのでどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

[学術研修委員会]

B班委員長 てらどまり 渡 部 綾 子

この度、学術研修委員会B班の委員長を承りました、老健てらどまりの渡部綾子と申します。会員施設の皆様には、日頃より、学術研修委員会の活動にご理解、ご協力を賜りまして誠に有難うございます。また、どの施設も人手不足で大変な状況にも関わらず、研修会には毎回多くの参加を頂きまして感謝いたしております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

学術研修委員が研修会を企画するにあたっては、最新のトピックスや皆様からご協力いただいたアンケートのご意見を参考にし、テーマの選定や講義、実技、演習、グループワークなど内容の構成を決めていきます。研修会に参加して下さる皆様が、楽しんで学び、他施設の仲間と交流し、ご利用者を支援する新たな力の糧となる『お土産』を施設に持ち帰っていただけるよう、学術研修委員一同、精一杯努めさせていただきます。

今期もまた、研修会、老健大会で多くの皆様とお会いできることを楽しみにしております。ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

	施設名	氏名		施設名	氏名
担当理事	ケアポートすなやま	松田由紀夫	委員	陽光園	鈴木悠夏
担当理事	女池南風苑	樋熊紀雄	B班委員長	てらどまり	渡部綾子
担当理事	陽光園	土田勲	委員	くびきの	伊藤亜子
A班委員長	女池南風苑	佐藤千賀子	委員	グリーンヒル与板	大堀肇
委員	アビラ大形	眞柄彰人	委員	春風堂	田中裕也
委員	ケアポートすなやま	藤田健太郎	委員	桃李園	小倉裕史
委員	白根ヴィラガーデン	脇本延明	委員	米山爽風苑	森田結
委員	千歳園	中村かおり	委員	楽山苑	西野陵輔
委員	やまばうし	伊藤香織			

[事務長会委員会]

委員長 てらどまり 渡辺 貴幸

私は1年前、自法人内の異動に伴い事務長委員会に任期途中で加わらせて頂きました。介護保険制度施行の年から15年間、会員施設共通の課題を広い視点で取り上げ、様々な活動を運営されてこられたこの委員会に身を置くだけで、とても勉強になりました。この度、前任の斎藤委員長様の法人内異動に伴っての後任選任にあたり、「まさか諸先輩方がいる中で介護あがりの自分が成るわけない。」と安心していた所、予想外の結果となってしまいましたが、命を受けた以上は諸先輩方の協力を頂きながら微力ではありますが頑張りたいと思います。

当委員会では事務長会議（全体会議）や研修会の企画・運営をはじめ、会員施設における各種加算の算定状況等のアンケートとそのフィードバック等が行われてきました。特に事務長会議では毎回多くの方にご出席を頂いており、その関心の高さを感じます。老健における事務長の立場は、経営の安定のために様々な重圧が課せられます。その中でも人とお金の管理においては、日々神経をすり減らしている状況だと思いますので、今後の活動ではその辺りを少しでも軽減できるものが提供出来るよう検討していきたいと思います。老健を取り巻く環境が目まぐるしく変動している昨今、会員施設が協同して安定した老健の経営が行えるよう当委員会も活動して参りますので、引き続き皆様方のご支援ご協力の程どうぞ宜しくお願い致します。

	施設名	氏名		施設名	氏名
担当理事	やまぼうし	馬場肝作	委員	いわむろの里	阿部恵子
委員長	てらどまり	渡辺貴幸	委員	米山爽風苑	川崎雅俊
委員	アビラ大形	中村久美子			

[トラブル防止検討委員会]

委員長 三川しんあい園 堀 一二美

前年度に引き続きトラブル防止検討委員長を承ります三川しんあい園の堀と申します。

毎年、各施設の事故防止委員の方々にはアンケートにご協力頂きありがとうございます。この委員会は皆様方のアンケートの基で成り立っております。集計作業、事例提出等でお手数をお掛け頂いていることを委員一同感謝しております。今後も引き続き、ご協力のほどよろしくお願い致します。また、今年度も8月にトラブル防止に関する研修会を開催する予定であります。大勢の方に参加頂きますよう重ねてお願い致します。ご協力のお願いばかりではなく、トラブル防止検討委員会が少しでも各施設の皆様方のお役に立つよう松田理事、戸澤理事からもお力添えして頂き、委員一同知恵を絞り努めていく所存です。

	施設名	氏名		施設名	氏名
担当理事	米山爽風苑	松田ひろし	委員	ケアプラザ見附	樋口智
担当理事	三面の里	戸澤和夫	委員	はねうまの里	長谷川学
委員長	三川しんあい園	堀一二美	委員	みづき苑	杉田浩子
委員	越南苑	亀倉よし子	委員	やまぼうし	相澤陽介

レクリエーションの取り組み

回生園 介護主任
山井 孝志

当園では毎年恒例で園内にある土地を活用して菜園を行なっております。5月頃に芋、スイカ、ナスなど利用者様と一緒に苗植えをし、時期になると収穫を行います。

毎年夏祭りに合わせスイカを収穫し、ご家族様、利用者様ともにおいしいと大変喜ばれています。秋は芋掘りを利用者様と共にを行い、毎年大きい物が取れたと嬉しそうに話していました。その他に収穫した物は厨房で調理をして、おやつやご飯のおかずになります。毎

日の水やりや管理が大変ですが、楽しみにしている利用者様も多く長年続けております。昨年は外出・買い物ツアーを企画し、買い物や気分転換に公園に行き散歩をしました。

全員が外出できるようにし、天気にも恵まれ楽しかったと満足そうに話していました。

今後も様々な場所に行けるよう企画し、満足できる生活が送れるよう支援していきたいと思います。



きたはら広報誌発行中！

きたはら 事務
風間 ユキエ

こんにちは！

十日町市にあります介護老人保健施設きたはらは、入所100床、通所20名の施設です。平成11年に開設して以来、地域の皆様にご利用頂きお世話になっております。

当施設ではオリジナルの広報誌を年4回ほど、ぬくもり溢れる手作りで発行しています。



この広報誌は、ご利用者様一人ひとりの施設でのご様子を担当スタッフが一言づつ書き添えてご自宅へ郵送しています。四季折々の行事などを通してご家族様とのコミュニケーションを図り、つながりを深めて行きたいと思っております。

これからは陽気も良くなり、だんだん暖かくなってきますので季節の変化を楽しみつつ、お花や野菜作りなど慣れ親しんでこられた作業等を取り入れながら、ご利用者様が生き生きと楽しく過ごしていただけるように取り組んでまいります。

今後も皆様に喜んで頂ける企画を盛り込みながらホットな話題を提供できるよう、スタッフ一同努めてまいります。



一番好きな事を見つける活動

希望の里 松涛園 課長
風巻一司

希望の里 松涛園は森林と野鳥の鳴き声に囲まれ、騒音など無縁の十日町市松之山の南西に位置する浦田地区に施設を設けています。

今年も迎えた春はとても穏やかで、いつもより木々の芽吹きも少し早いような気がしています。地域の方々の玄関先やお庭に沢山の山菜が並べられている光景が、待ちに待った春の訪れを実感させてもらいます。



ご利用者様も、この時期は、昔、山菜を使って作ったごちそうのお話などに花を咲かせ、とても暖やかで和やかな時間を過ごされております。

私達は、ご利用者様の一番好きなもの、一番したいこと、行きたいところに耳を傾け、日々の趣味活動や行事を検討し、実現に結び付けさせて頂いております。とりわけ、日本三大薬湯の松之山地区にある中、ここで温泉に入れれば最高なんだけどなあ…と言う声にも耳を傾け、平成24年12月には待望の源泉かけ流しの天然温泉浴場を増設して皆様に提供できることとなりました。ご利用者様は手工芸、料理、カラオケ、外出、外食も大好きです。普段なかなかできない一番好きなことを見つけて実現できる支援（活動）に向かい、これからも職員一同、笑顔で皆様と大切な時間を過ごさせて頂きたいと思っております。

自分たちのケア目標 (ケアプラン)を考えてみよう！

杏園 作業療法士
山下 ゆかり

杏園では平成21年度から「自分達のケアプランを考えよう！」と取組んでいます。これは「皆が考えた目標を達成するためのシステム作り」で、「一人一人が責任あるケアスタッフであり、目標・計画を実行するケアマネージャーとして！」という点から、実施しています。

チーム毎に「医・職・住」の視点で考え、目標、サービス内容を立案します。その達成状況を毎月振り返り（モニタリング）、その結果をミーティングで話し合い、半年毎に見直しをしています。

これからも「利用される方の暮らしを支える」という目標のもと、取り組んで行きます。



自然環境に恵まれた施設で 自分らしい療養生活を

くびきの 事務長
佐藤 三三夫

当施設は、今後の少子高齢化社会に向け、当地に少ない慢性期、高齢者医療と介護を担うべき病院と併設したケアミックス施設として平成6年に地域の要望と期待に応え開設いたしました。

上越市の中心部に位置し、平成27年春の北陸新幹線開業に伴い上越妙高駅から越後トキめき鉄道「妙高はねうまライン」高田駅で下車、徒歩5分と交通に大変便利な所に立地し、南に日本百名山で名高い妙高山、北東には霊峰米山を望み四季折々にその変化が楽しめます。春



は隣接する高田公園の日本三大夜桜が有名で、毎年全国から100万人を超える観光客で賑わう観桜会が開催され、夏は東洋一の蓮が高田城三十櫓の外堀に所狭しと咲き誇り、秋は青田川の真赤な紅葉、冬はスキー発祥の地で知られた金谷山と四季折々に美しく自然な環境に恵まれた施設です。

ご利用者の皆様には、歴史と豊かな自然環境の雰囲気を味わっていただきながら、元気で自分らしい毎日を過ごしていただけるようスタッフ一同、笑顔と真心に努めています。



行事をみんなで楽しもう

ケアポートすなやま 介護福祉士
藤澤 泉



当施設では色々な行事を行っていますが、ボランティアの方々による「すずらんコンサート」を1、2カ月に1回行っています。今年の3月で144回を数えました。

その他毎月のお誕生会にも利用者様に喜んで頂けるような出し物を行っております。ボランティアによる歌や楽器の演奏・踊りなどが主ですが、時々職員による出し物も行っています。

今年3月は職員による出し物で樽太鼓の演奏を行いましたのでその時の様子を紹介したいと思います。

出演職員は
限られた時間

の中で、自主練習や合同練習を重ねました。

樽太鼓にギター、メロディオン、合唱も加え演奏を行い、利用者様には大変喜んでいただけました。

これからも様々な行事を開催し利用者様に喜んでいただける笑顔溢れるケアポートすなやまを作っていくきたいと思います。



大花火見物

ケアホーム三条 事務課長
泉 泰一

済生会は、明治天皇が医療によって生活困窮者を救済しようと明治44（1911）年に設立されました。100年以上にわたる活動をふまえ、40都道府県で医療・保健・福祉活動を展開しています。うち、介護老人保健施設は29施設あります。

新潟県済生会のケアホーム三条は同一敷地内に病院、訪問看護ステーション、特別養護老人ホーム、ディサービスセンター、付属保育園等が併設しており、各施設が密接な連携をもとに切れ目のない医療・福祉サービスの提供を目指しております。

当施設の自慢できる行事は、例年8月の三条祭り大花火大会の見物です。豪華スターインや尺玉の連発、ナイヤガラなどの4000発の花火が夏の夜を彩ります。

打ち上げ場所から近い当施設は絶好の特等席となり、花火が天から降ってくるように感じられます。

当日は屋上に災害用のサーチライトやアイスクリームや飲み物などを用意し、入所者とそのご家族と職員で楽しみます。「すごいね！」「きれいだね！」と嬉しそうな笑顔に私たち職員も癒されます。

これからも利用者の方々に、季節を感じて楽しく過ごしていくよう様々なサービスを提供ていきたいと思います。



嚥下体操で朝から元気に!!

好日庵 言語聴覚士
小柳 郁弥

当施設は入所94名、通所リハビリ6名の施設です。リハビリスタッフは理学療法士2名・作業療法士1名・言語聴覚士1名・リハビリ助手1名の計5名です。各々の専門性を活かし、日々のリハビリ業務を行っています。

また、訓練だけに捉われず、レクリエーションなども行いながら利用者様の笑顔を引き出し、機能の維持が出来るように取り組んでいます。その中で、リハビリの一環として毎朝行っている嚥下体操について紹介させて頂きます。

嚥下体操には全身や飲み込みに関わる筋肉のリラクゼーションや覚醒を促す効果があります。利用者様に楽しんで行ってもらえるように、スタッフが率先して声を出し、利用者様が「大きな声を出しても恥ずかしくないんだ」というような雰囲気作りを意識しながら行っています。覚醒度の低い利用者様が少しでも声を出して頂けたり、歌を口ずさんで頂けたときの喜びはひとしおで、スタッフだけではなく、利用者様も含め、全員で喜びを分かち合っています。



み か な の 広 場

回生園

『滝を昇るこいのぼり』

当デイケアではご利用者様と協力して、季節ごとの壁飾りや吊るし飾りを制作しています。毎回自分達の力作が飾られるのを楽しみに作品制作をしています。



きたはら

手仕事の早い当施設の職人さんたちは、干支動物をあつという間に仕上げてしまっています。定番の「見ざる」「言わざる」「聞かざる」の他に「病がさる」も追加しようかと検討中です。

希望の里 松涛園

季節に応じた色彩豊かな壁紙を手工芸グループのご利用者様方が一生懸命作りました。お昼寝の時も今度は自分も参加したいなあと意気込みが聞こえています。



杏園

皆様が一生懸命作った作品です。職員が季節感のある、飽きない、簡単すぎない…などのテーマを考えて下絵を書き、皆様に貼って頂きます。折紙だけでなく、毛糸の鎖編みを貼る等工夫しています。



くびきの



ケアポートすなやま

『5月のこいのぼり』

通所の利用者様が協力して作りました。こいのぼりのウロコの部分は小さいカブトで出来ています。完成した際には作品作りに参加された利用者様も大変喜ばれていました。



ケアホーム三条

三条名物「凧合戦」。その凧の貼り絵です。勝つのは越後の龍「上杉謙信」か、甲斐の虎「武田信玄」か、はたまた「済生会ケアホーム三条」か。みんなで笑いながら楽しく作成しました。



好日庵



お花紙を丸めたものや折り紙を貼って作品に立体感を出し、色鮮やかな虹と青空で当施設の名前にちなんだ「好日」を表現しました。出来栄えに皆さん大満足な様子でした。玄関にて来庵者を歓迎してくれています。

編集後記

4月14日、熊本県益城町に震度7の地震が連続して発生しました。同月21日には、M3.5以上の地震は200回に達し、2004年の中越地震を上回りました。被災地の皆様には心からお見舞い申し上げ、災害が二度と起らぬないように祈るばかりです。防災安全に対する取り組みに一層重点を置かねばならないと感じました。

さて、第38号より「こんなことやってます!!～会員施設の取り組み～」を順次、紹介しています。共感できるものは取り入れ、施設間の連携を図るために一役かえたら素晴らしいと思います。今後も、各施設での取り組みの発信をよろしくお願ひいたします。

(広報委員一同)

新潟県介護老人保健施設協会広報誌
「老健にいがた」第40号

編集・発行 新潟県介護老人保健施設協会
広報委員会
〒959-2805 新潟県胎内市下館字大開1522
介護老人保健施設やまぼうし内
TEL (0254) 47-3303
FAX (0254) 47-3370
URL <http://niigata-rouken.org/>
印刷 野崎印刷株式会社